

能登の森里海研究会 2021 年度活動報告書

(1) 七尾湾の環境改善に向けたアマモの増殖活動

本活動は、こくみん共済 coop 地域貢献助成により実施した。

1) アマモ花枝収集と種子管理 (2021 年 6 月～10 月)

七尾西湾を漂流するアマモ花枝の回収を 6 月 2 日から 7 月 26 日の間に 7 回実施し、計 84Kg を収集した。収集した花枝は、屋外に設置した容積 100～250ℓ の水槽 5 台に分けて収容した。各水槽には通気と給水（水槽水を日当たり約 3 回転）を行い種子の成熟を待った。8 月 4 日に水槽底に沈下した種子を回収し、濃塩水を用いて比重の大きい種子約 10 万粒を選別した。選別した種子は容積 2～4ℓ の小型容器 6 個に分け、ろ過海水に浸した状態で冷蔵庫内で管理した。管理期間中は毎日、容器内のろ過海水の交換を行った。



種子の熟成水槽



水槽底に沈下した種子の収集

2) 種子の淡水処理試験 (2021 年 10 月)

淡水浸漬処理によるアマモ種子の発芽率向上効果を調べた。試験では種子約 10 万粒を試験区と対象区に等分し、10 月 13 日から 16 日まで 3 日間の淡水浸漬処理を行った試験区と、淡水浸漬処理を行わない対象区を設けた。試験区の種子は播種までの間、海水に浸漬して管理した。淡水浸漬期間中、2 日目から 3 日目にかけては容器内に大量の気泡が発生し状態の悪い種子の腐敗が促進されたと考えられた。

3) アマモの播種と追跡調査 (2021 年 10 月～2022 年 3 月)

七尾西湾舟尾川河口の前年度播種海域に隣接する水深 1m 前後の海域に、四隅にブイを設置した区域 (5m×5m) を 2 区画設けて、試験区と対象区とした。播種は、麻袋に現地の砂を充てんし、袋内の砂上に各区の種子約 2,000 粒を散布した後、各区に麻袋 25 袋 (種子約 5 万粒) を鉄杭で固定する方法で実施した。播種作業は能登里海教育研究所の協力の下、日本航空学園石川潜水部 20 名、会員、ボランティア 10 名が参加して、10 月 24 日に実施した。

播種後 1 回目の観察は 12 月 14 日に実施した。1 回目の観察では両区で散発的な種子の発芽が認められたが、雑海藻が繁茂しており目視観察では双方の違いを把握できなかった。今後も引き続き両区のアマモの生育状況を追跡して、種子の淡水処理の効果を検証する予定である。一方、2020 年播種群は、2021 年 4 月まで 2019 年播種群と比べて発芽が少なく、芽の生育・伸長が悪い状態で推移していたが、これらは 4 月以降も伸長することなく消滅した。



播種に使用した麻袋 約10L
の海砂を充てんし、砂表面にアマ
モ種子2千粒を散布した



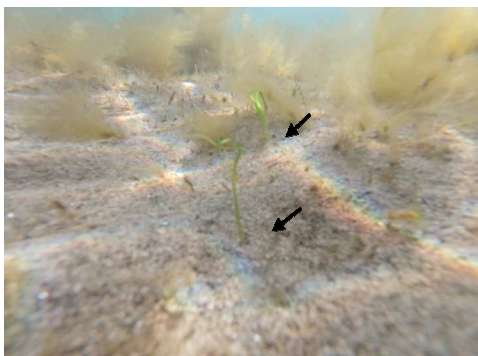
麻袋への種子の散布



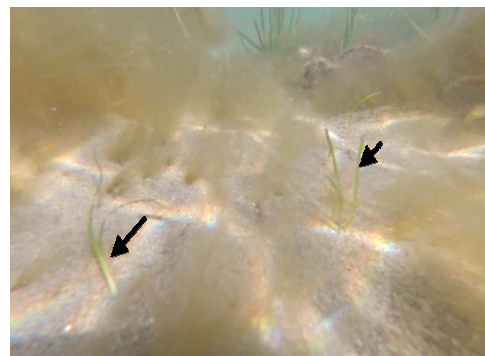
ダイバーによる海底への麻袋設置



播種活動参加者一同



対照区の発芽状況
2021/12/14



淡水処理区の発芽状況
2021/12/14

4) 学習会の開催 (2021年10月30日)

播種活動に協力いただいた航空学園潜水部の皆さんを対象に、「七尾湾の環境保全への取り組み」と題した学習会を開催し (15名参加)、活動の背景について理解を深めてもらった。



航空高校石川潜水部との学習会



質疑討論の様子

5) 親子体験学習会の開催 (2021年10月31日)

七尾市近在の小学生親子を対象にアマモについての体験学習会を実施した (主催は七尾市わくわく自然科学館 10名参加)、会では七尾湾の環境変化とアマモ場の役割について学習した後、アマモ種子の植え付け体験を行った。



親子体験学習会

「アマモってなに？里海のアマモ場を知ろう」



アマモ種子の植え付け体験